

# 米沢有為会 東京支部だより

vol. 28

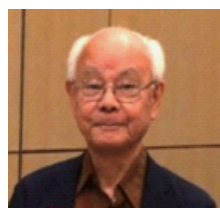
発行／(公社)米沢有為会東京支部 発行人／工藤 美知尋 発行日／令和6年12月28日  
〒182-0004 東京都調布市入間町1-3-6 東京興譲館内 TEL/FAX 03-3309-3302  
米沢有為会ホームページ <http://www.yonezawa-yuukai.org/>



東京支部園遊会 笑顔の記念写真

## 巻頭言

### 『国語学者 保科孝一』関口 真博



保科孝一氏の写真

母方の祖父保科孝一は国語学者として明治から昭和にかけて生涯を国語の改良に努めた。日本の理科が遅れているのは学生が理科に入る前に難解な国語で足踏みをしてしまうからで、例えば「王子」のフリガナは「ワウジ」であるがよむのは「オウジ」。かような国語を簡単なものにしたいというのが生涯の課題であった。祖父は明治五年に米沢市猪苗代片町で元米沢藩士保科忠次郎と官僚宮島誠一郎の妹順の長男として出生し興譲館中学で学ぶが当時この学校は上級学校への進学資格が無く途中で上京して東京の成立学舎に入学した。当時の保科家は失業武士の典型的な極貧生活を送り父親は役所の書類作成や土木工事の現場監督等で日銭を稼ぐ生活でとても上京して上級学校に進学する余裕は無く、そこで母方の伯父で宮島誠一郎の弟小森沢長政を頼る事となる。小森沢は当時海軍省軍務局勤務で兄と共に優秀な人材を海軍兵学校に数多く送り込み後に多くの将軍を輩出し「米沢海軍」とまで言われた。そのような環境で当然海軍に進むと思われ何故祖父が国語学者になったのか永い間不思議であったが近年宮島誠一郎のご子孫から当時祖父が従兄の書家宮島大八に宛てた手紙を頂きそれには「私の志願は兵学校故追って入校致す都合に御座候」とはっきり書いてあった。

しかし海兵の夢叶わず一高に進学したのは母方に「色覚異常」所謂色盲の遺伝がありその為海兵受験に失敗し進路変更をしたようだ。「奥さんを亡くした後自分で繕い物をする事が有り何であの色の糸を使うのか不思議に思ったことがある」との伯母の思い出話はこれを裏付けている。こうして一高を経て進学した東京帝国大学で国語学を学び卒業後は大学に残り教育者となるが博士号は終生取得する事なく生涯「文学士 保科孝一」で通した。これは指導教授が祖父の博士論文を誤って紛失し騒動となった為め祖父は「あれは博士論文ではなく、一論文に過ぎない」として収めた為めでその後も博士論文を出す事はなかった。しかし東京帝国大学では博士号を持たない教授の対応に困った様で同情した文部大臣の斡旋で東京文理科大学、現在の筑波大学の教授に転身し同学で幾多の国語学者を育てる事になる。祖父は国語審議委員や幹事長として永く文部省の嘱託も努め昭和天皇へのご進講や昭和三十年に亡くなる直前には未だ叙勲制度が復活していない当時国立大学の学長並の「勲二等旭日重光章」を拝受したのも博士号を持たない国語学者としてそれなりに評価されていたのであろう。

## 特別寄稿

齊藤 脩



## 【「虎に翼」と戊辰戦争と

核廃絶 はて？】

寅子こと三淵嘉子さんの義父  
三淵忠彦氏は悲運の会津人

NHKの連続テレビ小説

「虎に翼」は、今年の猛暑  
を乗り越えるための力強い応援  
団になってくれました。主人公の寅子は日本初の  
女性弁護士であり、戦後初  
の女性裁判官となった三淵嘉子さんがモデルになって  
いますが、その義父は、日  
本国憲法下で独立した司法権の初の最高裁判所長官に  
就任した三淵忠彦氏です。この三淵氏のルーツは会  
津にあります。伯父は会津  
戦争の責任を負って切腹した家老の萱野権兵衛。萱野  
家はお家断絶となり、その  
一族は姓を変えて各地を転

々としてきました。

この運命は、我が家の苦  
提寺法泉寺の檀家総代であ  
る色部家の戦後の苦難と重  
なります。奥羽越列藩同盟  
の盟主である米沢藩の総督  
であった色部長門は越後で  
戦死しましたが、敗戦後に  
米沢藩の責任を負わされてお家は断絶。その14年後  
に回復して、四年前にその  
顕彰碑が境内に建立されま  
した。三淵忠彦氏は岡山で生ま  
れ会津中学、荘内中学（鶴  
岡南高）を経て仙台の旧制  
二高から京大を卒業し、法  
曹の道に進んでいます。新憲法下での最初の最高  
裁長官選任の責任者が、当  
時参院議長だった松平恒夫  
氏が、会津藩主松平容保公  
の息子であったことも歴史  
の奇遇と言えるでしょう。余談ですが、多くの長官候  
補者の中に我妻榮さんもお  
られたようですが辞退され  
たとのことですね。三淵氏の長官就任の挨拶「  
裁判所は民主的憲法の下、  
国民の権利を擁護し、正義  
と衡平を実現するところであ  
って、圧制政府の手先とな  
って国民を弾圧し迫害する  
ところではない。裁判所は真  
実に国民の裁判所になり切  
らなければならぬ」には強  
い会津魂を感じます。原爆裁判、核兵器禁止条約、  
そしてノーベル平和賞「虎に翼」はその冒頭から  
「法の下の平等」を規定し  
た日本国憲法第14条の読  
み上げから始まりました。戦前の家父長制以来の女性  
差別、民族差別、性的マイ  
ノリティ、同性婚、尊属殺  
人、夫婦別姓など現在も未  
解決の様々な基本的人権に  
反する不平等問題を提起し  
続けました。ただ三淵嘉子  
さんの実際に関わった裁判  
で特筆すべきはやはり原爆  
裁判でしょう。昭和30年に広島・長崎の  
被爆者五人が原爆被害の損  
害賠償を日本政府に求めた  
裁判は8年の審理を経て原  
告の請求は棄却されました。  
しかし、判決文の中ではアメ  
リカによる原爆投下を国際人  
道法違反と断罪しました。三淵さんはこの裁判に最初  
から最後まで関わったただ  
一人の裁判官です。さらにこの判決文の中で、  
人類未曾有の原爆被害に対  
して救済の手を差し伸べて  
いない状況を「政治の貧困  
」と指摘し、これが後の被  
爆者救済援護法の制定につ

なりました。

原爆投下から間もなく80  
年を経ても被爆者救済は終  
わっていませんが、ヒバク  
シャの声は核兵器廃絶にむ  
けて世界を動かしてきました。  
長い地道な取り組みを続け  
た結果、核兵器を国際人道  
法と国際人権法に反すると  
して、法的に核兵器を禁止  
する「核兵器禁止条約」が  
、2012年の国連で採択  
され、50か国の批准を経  
てついに2021年に発効  
しました。現在は94か国が締結してい  
ますが、残念ながら日本国は  
いまだ参加していません。核兵器による軍事的な抑  
止論は、論理的に無限の核  
兵器の増強競争を続ける道  
、すなわち人類の滅亡への  
道しか残されません。ウクライナ侵略でロシア  
のプーチンが核兵器の使用  
を公言し、中国や北朝鮮が  
核兵器の増強を続けている  
中で、パレスチナ紛争でも  
、核保有のイスラエルとイ  
ランとの軍事的な緊張も高  
まっています。こうした人  
類の絶滅につながる核兵器  
使用が日々現実味を増して  
いる切迫した危機感を背景に今年のノーベル平和賞が  
日本の被団協（日本原水爆  
被害者団体協議会）に授与  
されました。自らが体験した原爆被災  
を世界に向けて発信して、  
核廃絶を世界に訴え続けて  
きた、ノーモアヒバクシャ  
の声が世界に届きました。唯一の被爆国である我が  
国の崇高な使命として、核  
兵器廃絶を国是に掲げ、そ  
の実現の日まで愚直に訴え  
続けることが求められて  
いるのではないだろうか。  
ノーモアヒロシマ、ノーモ  
アナガサキ、ノーモアウオ  
ー、ノーモアヒバクシャ、そ  
してネバーギブアップ、です。三淵嘉子さんは退官後、  
弁護士になられてから核兵  
器禁止条約の成立のための  
運動に参加していました。

三淵嘉子氏





## 東京興議館寮現在の状況

日頃より東京興議館寮の運営と我々学生の生活に多大なるご支援をいただきますこと誠に感謝申し上げます。

卒業生三名の皆さんは、大学院に進学し、二名が退寮しました。十月現在、寮には十名の学生が在籍しており、それぞれが目標に向かって励んでおります。

東京興議館の近況についてご報告させていただきます。

まず、今年度は一名の新しい寮生を迎えてスタートしました。同郷の後輩を新たに受け入れ、上京した頃の期待と不安が入り混じった自分に重ね合わせると同時に、先輩としてそして寮長として、彼らをさまざまな面からサポートすることの責任を感じた次第です。それでも依然として寮生は少ないままであり、寮の活気が少なくなっていることに寂しさを感じています。それでも、新入寮生歓迎会や大掃除などの行事は従来通り行い、今いる寮生で最大限楽しめるようなイベントづくりに全員で取り組めたと思っております。

また、寮に在籍している学生のうち来春で卒業を迎える寮生が多く、卒業に伴い退寮されると寮生はこれ以上に少なくなることが考えられます。今ですら寮の運営は厳しいところですが、今後は深刻な財政状況になってまいります。食事会などの寮のイベントが開催できなくなることも考えられ、不安を感じます。

有為会の皆様には新しい寮生の獲得にご尽力いただき、さらには補助金まで下さったり大変ありがたく思います。また寮母さんも、この物価高の社会の中で苦しい財政状況にもかかわらず、さまざまに節約の工夫をこらしながら毎日の食事を作っていたいており、感謝申し上げます。

我々寮生からも電気や水道の節約など、寮の財政状況改善のためにできる限りのことをやっていきたい所存です。短い学生生活ではありますが、寮生一同志しく邁進してまいりますので、今後とも見守っていただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

(寮長 伊藤 翔大 記)

## 新入寮生 「私の抱負」

野呂 知志

(法政大学文学部日本文学科二年)

埼玉県立川口北高校)

私が法政大学文学部日本文学科に入學した理由は、文学を学びたかったからです。現在大学二年生なのですが、大学では戦後文学を学ぶゼミに所属しており、日々勉學と研究に励んでいます。大学生の内には経験できないことに色々挑戦したいと思っています。将来やりたいことはまだ見つかっていないのですが、大学生の内にはやりたいことを見つけることを目標にしようと思います。

## 新入寮生募集についてお願い

来年の入寮生募集は、随時選考と日時等指定選考の2通りで実施します。募集人数は十五名程度(定員二十四名)寮費(食事代、水道代、光熱費等全てを含む金額)月額六万五千円朝夕二食付き(但し土、日および祝日を除く)

入寮費四万円(初年度のみ)面接はコロナ禍のため自宅でオンライン接続により実施、入寮願書は、米沢有為会のホームページからダウンロードしてください。

寮経営のブレイクポイントは十八名であり、経営的に厳しい状況です。

来年度の入寮希望者を増やすべく各高校等へのPR活動を強化しています。

会員の皆様におかれましても、身近に、おられる方やお知り合いの方で、

来春首都圏の大学に進学される学生があられば是非東京興議館寮を紹介・推薦いただければ幸いです。

置賜出身者でなくとも会員(一名)の推薦があれば応募可能です。



園遊会の受付



新年会・予餞会

## チャリティコンサートへの軌跡 八木 倫明 (やぎりんめい)



経緯(いきさつ)

東京興譲館寮が赤字を抱えて大変だということを東京支部長の工藤美知尋さんから聞いていた。工藤さんは、2020年に百周年を迎える母校・長井高校に東京の同窓会支部から記念碑を贈ることを計画して、資金集めのコンサートをボクに持ちかけ、2017～19年の三年間それは実行された。東京公演三日間、長井公演三日間。長井公演ではボクの兄で「葉っぱ塾」主宰の八木文明が事務局長(実質の実行委員長)を務めた。六回の公演で120万円余りの資金が集まり、長井高校卒業生で、教員生活最後の五年間を同校校長として務めた芳賀秀次郎先生の言葉が刻まれた記念石碑を贈った。こんな経験があったので工藤さんは、有為会会員であるボクのコンサートを成功させて、興譲館寮に寄付をしようと考えたのは自然のなりゆきだった。しかし「成功」させることが難しい。コロナ騒動以後、コンサートのお客様が減っている。東京支部の会員にお便りとチラシを送って、どれだけ共感が

得られるか？ がひとつのポイント。

そして、第二のポイントは米沢有為会と全く無関係の人も聴きたくなる、寄付しても良いと思いたくなるコンサート企画実行することだ。

### 実行と成果

「ふるさと置賜チャリティコンサート」というタイトルに決まり、会員のボクが、自分を育ててくれた置賜の自然や人々に感謝し、その恩送りとして有為会に寄付する趣旨とした。

工藤さんとボクが実行委員となり準備を始めた。会場を二年前に申し込むとすぐにホール代の請求が来る。コンサートが未発表の時期に数万円の経費が発生する。チラシのデザイン料・印刷代、郵送費など、チケットが売れる前に約十萬円の経費がかかる。そういった経費の回収すら難しいのが昨今の現実である。赤字が出たら二人で背負う。まさに背水の陣。2014年四月の東京公演は日暮里サニーホールでコンサートサロン(定員100)で昼夜二回公演を行なった。土日の会

場を押さえるのは一年前の抽選に参加できてもほぼ落選。平日に実行するしかない。

難しい事情が重なる中、声

楽家の大前恵子さんが五十人以上のお客様を集めてくださった。そして、有為会東京支部の方々の協力も期待通り。様々な事情で参加できなくても、チケット代(3500円)と同額の寄付の方にはコンサート記録録音のCDを返礼とした。昼は売り切れ、夜は半分の入場者、そして寄付が五十口くらい集まり、二十四万円を寄付することができた。

### 米沢公演の様々な実り

七月には米沢公演を行なった。置賜出身で毎年のように長井、飯豊、白鷹、山形市で公演をつづけているとはいえず、米沢はアウェイの地だった。米沢に知り合いは少ない。興譲館の東京同窓会で知り合った福岡真知子さんを訪ねたり、長井公演のお客様として名刺交換したことのある、ピアノ教師・森直子さんと連絡をとり、協力要請をした。お二人ともお顔が広く、それぞれのネットワークでコンサートを広めてくださった。森さんは「うちの息子も大学時代には有為会にお世話になりました」と、ボク以上

に熱心に公演の広報とチラシ配布、チケット販促に取り組んでくださった。ボクの訳詞したスコットランド民謡を唄ってくださる地元の女声合唱『ゆずりは』の金藤さん、米沢ケーナの会の松村さんなどをご紹介くださったのも森さん。おかげで合唱やケーナの会との共演も実現した。いろんな意味で実り多い米沢公演であり、二十万円の寄付額を確保できた。





## 県民の歌《最上川》

コンサートを《最上川》で始めようというアイディアは工藤さんの発案。昭和天皇が庄内平野を詠まれた短歌が歌詞になつている。置賜は上流の地なので、水源地の森を表現するイントロを編曲して演奏し、好評を博した。山形県内でのコンサートの定番にしようと思う。

### 感謝と継続

東京興譲館寮の赤字をきつかけにしてゼロから立ち上げたことだったが、音楽は人と人の温かいつながりを生み出す素晴らしい芸術だと改めて思った。かわつてくださったすべての皆さんに感謝申し上げます。今後は三年続けます。今後もお力添えよろしく願います。

(やぎりんめい。1958年生まれ。長井高校、早稲田大学商学部卒。財団法人日本フィルの事務局員を経て2010年から音楽専業。作詞家、ケーナ奏者。歌手クミコの《広い河の岸辺》の訳詞者として2014年メジャーデビュー。「百年歌」に継がれて日本の歴史に残る歌」と湯川れい子氏が絶賛。ラジオ深夜便や『徹子の部屋』に出演) 文中写真は、伝国の杜置賜文化ホールでの米沢公演

## 東京支部の活動状況

### ▲新年会・予饗会

令和六年二月十一日に主婦会館プラザエフで開催。寮生九名を含む四十六名が出席しました。卒業生からこれからの進路と抱負を述べてもらいました。

### ▲ふるさと置賜チャリティーコンサート

四月十六日に日暮里サニーホールで開催されました。主催・実行委員会(代表工藤美知尋)共催・地球音楽工房(代表・八木倫明)で実施。支部会員が多数多数参加して頂き感謝申し上げます。

### ▲令和六年度支部総会・新入寮生歓迎会

東京支部の「定期総会」は議決権行使書と対面式を併用して五月二十六日に開催されました。令和五年度の事業及び決算報告、令和六年度の事業計画(案)、予算(案)は、賛成多数で承認されました。東京興譲館は1名の新入寮生を迎えて、新入寮生歓迎会を実施しました。

▲園遊会で芋煮と地酒を満喫  
令和六年の園遊会は、主婦会館プラザエフで十二月十日に開催されました。定刻に加藤正憲理事の司会で始まりました。県民歌

「最上川」斉唱後に上杉邦憲名誉会長、平山英三会長からご祝辞を頂きました。下條泰生名誉会員の音頭で乾杯をして懇談に入りました。

置賜から芋煮材料を取り寄せて片桐美代さん(ボランティア)と実行委員の倉田和子さんの二人に調理して頂いた芋煮や玉こんにゃくと地酒を味わいました。今回初めて米鶴と東光の蔵元から直接購入しました。一定金額以上により送付料が無料になりました。出席者は六名の寮生を含めて四十二名でした。取り寄せた地酒も好評で完売でした。

### ▲東京支部会員数

(令和六年十二月末現在)

正会員数 九三名

賛助会員数 百十八名

法人賛助会員数 五名

### ▲計報会員

ご生前の長年にわたるご協力に感謝申し上げます。( )内は命月

小田切 登様(令和四年二月)  
鈴木 啓一様(令和四年四月)  
鹿股 秀夫様(令和四年五月)  
遠藤 哲 様(令和四年十月)  
小野 辰雄様(令和五年五月)

### 新年会・予饗会の記念写真



川井 陽一様(令和五年六月)  
伊藤 均 様(令和五年六月)  
樋渡 三保子様(令和六年三月)  
柳原 寿男様(令和六年八月)  
小松 繁 様(令和六年十月)  
渡邊 忠義様(令和六年十月)

会員の高齢化により退会者や逝去者が増えています。

川合 勝雄 記

特別寄稿

日本吟道学院正会員

米野 龍宗（宗禎）

結婚祝いの絵画に

千五百万円の評価



令和六年一月三十日

「鑑定団」出演日

主役は「片岡球子」先生

バンザイ

私は、『開運なんでも鑑定団』の視聴者です。

五十四年前に「片岡球子

（日本画家）の『赤富士』

を結婚祝いに頂いた作品と

共に鑑定団に参加すること

になりました。下さったの

は妻苑子の両親です。十四

年前亡くなった苑子さんは

生前杉並八幡幼稚園で二十

年、立正大学短大・四大で

教授として子供と学生に絵

の指導をし、本人も日本地

図で有名な伊能忠敬翁の現

当主で画家の伊能洋先生の

教室で古里が同じことも

あって家族同様絵を習って

おりましたから……。

父親は若い時、中国北京

に留学し同学会語学校で学

び満州国司法部で満州国皇

帝、関東軍司令官等の通訳

を務め四川省教育長李宗吾

原作者の日本語訳をペンネ

ームで葉室早生（本名嘉村

満雄）「厚黒学入門」等出

版。中国人の世界観、人間

観を当時政治、経済人が学

ぶ内容でサブタイトルに

『ずぶとくはらぐろい学』

と訳しベストセラーでした。

戦後帰国され、東京地方検

察庁に勤めておられますか

ら「球子さん」の絵は本物

二千マン円と叫んだのです。

さて、球子先生に小生が

『赤富士』を持つっていると

自慢したくなり先生が百一

歳頃ですが銀座での個展会

場を尋ねました。

若い時巷で「絵本」出版

「ひかりのくに」で働いた

こともあり画家たちにチョコ

ット伺いました。が、「男

みtainな絵を描く女」とい

うものでした。私にとって

家に同居している親友「赤

富士」。球子先生は何と

おっしゃったと思います。

開口一番「あら、ワタシ

の赤フジ！あなたが持つ

ておられるの……！」「私

どなたが持つておられる

のか探していたのいたの

よ！画いた私が好きな絵

画なのよ！展覧会場にい

つも出しておきたかった

作品なの」とハンカチを

手に目に運ばれるのでし

た。しばらくして「私は

絵描きですから、売る仕

事はしていませんから

……」と言われました。私

は「日本一の山」子供の

時、童謡も歌い、絵も描

かされた富士の山は好き

です」と申し上げました。

「私もヨ！」と応えられ

ました。

二〇〇八年一月二十一日

享年百三歳、画家の平山

郁夫先生が「球子さんを

悼む」と産経新聞の「文

化」欄で「富士山の連作

も個性豊かで原色モザイ

クのような山や花を造形

化した作品は力強く人々

に強烈な印象を与えてい

た。」と冥福を祈ってお

られました。文化勲章受

章者、女で一人かな。

さて小生は年賀状で百

九十人程に添え書き



【赤富士】

「一月三十日なんでも鑑定団」に出演するので宜しく！と。そして「テレビ観たよ」の電話、ハガキ等々オシヨウシナ・オシヨウシナ。

百まで生きるそれには年金だけではと思いつつ鑑定団万歳と叫びました。趣味の「詩吟」も百までやる！と「豪神会」の會長藤本龍瑠先生にホラを吹いております。しかし「散る桜、残る桜も散る桜」（良寛作）命も百までとはゆきますかどうか楽しみな歩みのスタートです。



司会の今田耕司さん





## 新入会員

柿崎 聡太



米沢有為会会員のみなさま、はじめまして。柿崎聡太（かきざき そうた）と申します。

私は米沢市で生まれ育ち、平成30年に米沢興譲館高等学校を卒業後、明治大学法学部へと進学し、現在は同大学院政治経済学研究科にて地方自治を学んでおります。

入会のきっかけは、昨年10月に举行された我妻榮先生没後50年記念式典のパネルディスカッションに登壇させていただいたことです。当時我妻榮記念館館長でいらっしゃった矢尾板操さまに声をかけていただき、若い世代の視点から我妻榮先生の活躍や、送られた人生から自分が何を感じたかなどを、発表させていただきました。

先生との関係の中で、特に印象に残っていることは、大学生のころに初めて我妻榮記念館を訪れた際の経験です。館長の矢尾板さまと管理人の手塚さまのご案内で、ご遺品や判例カードを拝見しました。展示品の中には先生が東大法学部長時代にお使いになられた机と椅子があるのですが、お二人に「先生の椅子に座ると成績がよくなるんじゃない？」と言われて、座ってみたところ、その後不思議なことに、私の成績が急上昇したのです。その時は、先生が努力する姿勢を見守って下さっているように感じました。

## 寄稿

## 『有為会とのお縁』 平田 典史



米沢有為会は、郷土愛を土台に相互親睦と切磋琢磨を目的に共存共栄を図る同郷人の団体として、有為なる米沢・置賜人の発掘と育英の活動しています。ご挨拶に際し、第3代会長を務めた高祖父・平田東助の唱えた「共存共栄」をご紹介します事で、この度のお引き合わせになれば幸いです。

平田東助は、明治・大正期の官僚・政治家です。賊軍出生地ながら、明治政府内で重用され、良縁を大切に公平無私に徹し生き抜きました。産業組合中央会を明治37年に創立。初代会頭として、大正11年迄18年間、日本全国に講演の足跡を印しています。講演時のテーマが「共存共栄」です。有為会でもしばしば語られる「共存共栄」ですが、この言葉は東助が終生自訓とした、精神的共同団結・物質的共同補助を信条にした四字約言です。

共存共栄について「人は天性孤立し得るものでなく、父母の間に生まれ、夫や婦となって共同生活をし、集まって村となり、社会となって国となる。これ皆、人の天性に基づき起こる共同体で、樹木が集まって林になるようなものである

## ～我妻榮先生の学問への想いに触れて～

先生は、学問に対して妥協が無く、大変真摯な方でいらっしゃいました。勉強の際には参考書や教科書を手当たり次第に何冊も使うのではなく、一冊を完璧に理解するまで使うという勉強手法をお持ちであったとお聞きしますし、友人であった岸信介元首相と学生時代に旅館で缶詰になって勉学に励んだというお話にも象徴されています。

私が大学進学に伴い上京するまでは、都会への憧れが募る毎日でありました。しかし米沢は我妻榮先生をはじめ、偉大な先輩方が生まれ育った地であることを知り、さらに大学院で地方自治を学び、地域それぞれに魅力があることを知った今、郷里への想いが募る毎日です。

最後に、私が大切にしている母校校歌の一節をご紹介します。一人皆の命を崇め、わが力わが誠、世のために尽くさんー いま、まさに勉学に励まれている皆様におかれましては、誇りを持って世の中に羽ばたかれることを祈念いたします。

今後とも、米沢有為会の諸先輩方にはご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平田東助氏

。木々は根があり、枝葉があって1本の木となるが、風雨寒暑に侵され折れ、裂け、亭々として空中にそびえる大樹に成長するのは難しい。集まって林となれば互いに競い、互いに相助けて成長し、風雨に対抗し折裂の心配も少なく、立派な林相を為す。独木に鄧林の茂をなし得ずの意味である、我が国は肇国以来父祖代々相助けて各々その業をとり、一国一家のごとく共に繁茂し、共栄共存し存立を保つものである」と語っております。自助・互助・共助・公助を以て会の発展に通ずる、意志ある言葉だと感じております。

講演はインターネットで「国立国会図書館デジタルコレクション、平田東助、歴史的音源」で検索頂くと『講演・共存共栄に就いて』の題名で懐かしみある米沢訛りの肉声を今でも聞くことができます。

この約言を米沢・置賜人の息吹としてお感じ下さり、有為会各支部の結束と親睦が実の一助になりましたら幸いです。今後ともお見知り置き下さいますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 【ご参考】【東助座像移設・竣工式の様子】

平田東助像が故郷米沢に移設、竣工式を举行 | 米沢日報デジタル（左記の文章を入力して検索）  
講演音声のリンク先

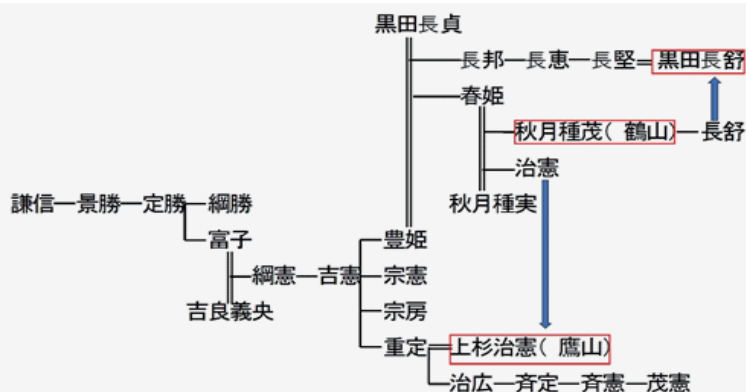
<https://dl.ndl.go.jp/pid/3574641>（上・2分02秒）

<https://dl.ndl.go.jp/pid/3574642>（下・2分30秒）

上杉 邦憲 米沢有為会 名誉会長

一方当時出羽米沢藩上杉家は財政破綻状態の上、第9代（米沢藩主第8代）上杉重定に後継ぎがないという存亡の危機に瀕していました。これを心配した豊姫が実家の上杉家の養子に推したのが、娘春姫の嫁ぎ先秋月家の聡明な孫の松三郎でした。兄の種茂が秋月藩主となった同じ年の宝暦10年、10歳の松三郎は上杉重定の養嗣子となって桜田の米沢藩邸に移り直松に改名します。明和3年（1766）に元服、江戸幕府10代将軍徳川家治の偏諱を受け治憲と改名します。明和4年（1767）に兄と同じ17

会費 6 千円



# 編集後記

$$\begin{pmatrix} \mathbf{K} \\ \bullet \\ \mathbf{K} \end{pmatrix}$$

濱田 吾愛 宮坂 孝夫